

2020年6月28日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第4主日（特定8） 説教

「私たちの心を揺さぶる福音」

〔旧約聖書〕	イザヤ書 2:10~17
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 6:3~11
〔福音書〕	マタイによる福音書 10:34~42

主の平和が皆さんと共にありますように。

「キリストの平和がわたしたちの心の隅々にまでゆきわたりますように」（聖歌 562 番）

礼拝でよく歌われる聖歌です。幼稚園でも7月の聖歌に選ばれている聖歌で子どもたちもこの歌が大好きです。聖書には「実に、キリストはわたしたちの平和であります。」（エフェソ 2:14）とあるようにイエス様は平和の君です。それは真実であることに私たちは疑いを持つてはいけません。

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思つてはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。」（マタイ 10:34）

このみ言葉は、イエス様が不和を望んでいることを意味するものではありません。キリストに従う事は人々の分裂の原因になっていることを意味します。

「わたしにつまずかない者は幸いである」と主イエス様は言われています。

洗礼を受けてキリスト教徒になり、キリストと共に生きる決意をするために皆さんはそれぞれ背景があると思います。教区報あけぼのに「わたしの道の光」という連載記事があります。ご自身のこれまでの歩みを振り返り、その歩みの中にイエス様の光がどのように照らしそして今日まで導かれてきたかを皆さんお書きになっており、私も毎回読ませて感銘を受けています。また、堅信を受けられた信徒の方の執筆による「堅信を受けて」も同じく毎回新たな気づきと信仰に生きることの美しさを思います。

そして、洗礼・堅信を受けるまでには葛藤をかかえ、そしてそれは今もこれからも継続している方もたくさんいらっしゃることを私は「想像力」を働かせていつも心に覚えたいと思っています。

同時に、信仰は確かにその方の生活を支え、生きる糧となっていることも強く感じます。

本日の福音書を通してイエス様が私たちに伝えようとしている良き知らせを緊張感のあるものです。

「はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ま

せてくれる人は、必ずその報いを受ける。」(マタイ 10:42)

御言葉は私たちを新たな方向へと導き、多くの事に気づきを与えてくれます。そして私たちの心をゆさぶり、時には躓きともなります。

それはなぜか、それは真実だからです。私たちは真実の前には顔を覆いたくなり、またその事実から逃げたくなる性質を持っていると思います。イエス様は「真実」そのものです。

信仰が内向き、つまり自分の救いのためだけに考えるとこの真実は鋭く私たちの心を揺さぶります。教会もそうです。「冷たい水を一杯でも飲ませる」という箇所は、小さな愛の行為、たとえ些細な事であっても教会はいつも外に向かって開かれていること、自分以外の人に手を差し伸べようという思いを持ち続けることが大切だと思うのです。